

[解答]

(1)	ア	イ							
	1	3							
(2)	ウ	エ							
	3	3							
(3)	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	
	1	5	1	5	2	1	5	4	

[解説]

(1)

$\angle A = \theta$ であるため、 $0 < \angle A < \pi$ より、 $0 < \theta < \pi$ である。また、 $\angle B = 2\theta$ であるため、

$0 < \angle B < \pi$ より、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ である。ここで、三角形の内角の和は π であるから、

$$\angle A + \angle B + \angle C = \pi$$

$$\therefore \angle C = \pi - 3\theta$$

である。 $0 < \angle C < \pi$ であるから、

$$0 < \pi - 3\theta < \pi$$

$$\Leftrightarrow 0 < \theta < \frac{1}{3}\pi$$

となる。以上より、求める値の範囲は $0 < \theta < \frac{1}{3}\pi$ である。

(2)

$\theta = \frac{1}{9}\pi$ のとき、 $\angle C = \frac{2}{3}\pi$ である。正弦定理より、 $\triangle ABC$ の外接円の半径を R とおくと、

$$\begin{aligned} R &= \frac{AB}{2\sin\angle C} \\ &= 3\sqrt{3} \end{aligned}$$

である。

(3)

$\angle A = \angle C$ のとき、 $\angle A + \angle B + \angle C = 4\theta$ であるため、

$$4\theta = \pi$$

$$\therefore \theta = \frac{1}{4}\pi$$

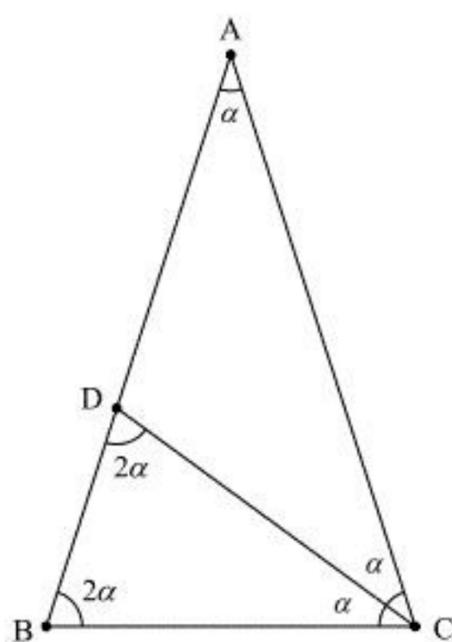
である。一方、 $\angle B = \angle C$ のとき、 $\angle A + \angle B + \angle C = 5\theta$ であるため、

$$5\theta = \pi$$

$$\therefore \theta = \frac{1}{5}\pi$$

である。 $\angle A < \angle B$ であるため、 $\triangle ABC$ が二等辺三角形となるとき、 $\theta = \frac{1}{5}\pi, \frac{1}{4}\pi$ である。

$\frac{1}{5}\pi < \frac{1}{4}\pi$ より、 $\alpha = \frac{1}{5}\pi$ である。 $\theta = \alpha$ のときの $\triangle ABC$ を図示すると以下ようになる。



$\angle CDB = \angle B = 2\alpha$ であるから、 $CD = BC$ である。また、 $\angle A = \angle DCA = \alpha$ より、 $AD = CD$ である。したがって、 $AD = BC$ であり、 $BD = AB - AD = AB - BC$ となる。 $\triangle ABC$ と $\triangle CDB$ が相似であることから、

$$AB : BC = CD : BD$$

$$\Leftrightarrow AB : BC = BC : (AB - BC)$$

$$\Leftrightarrow AB^2 - AB \cdot BC - BC^2 = 0$$

$$\Leftrightarrow \left(\frac{AB}{BC}\right)^2 - \frac{AB}{BC} - 1 = 0 \quad (\because BC > 0)$$

$$\Leftrightarrow \frac{AB}{BC} = \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2}$$

となる。 $\frac{AB}{BC} > 0$ より、 $\frac{AB}{BC} = \frac{1 + \sqrt{5}}{2}$ である。 $\angle B = \angle C = 2\alpha$ より $AB = AC$ であるから、余弦定理より、

$$\begin{aligned} \cos\alpha &= \frac{AC^2 + AB^2 - BC^2}{2AC \cdot AB} \\ &= \frac{2AB^2 - BC^2}{2AB^2} \\ &= 1 - \frac{1}{2} \left(\frac{BC}{AB}\right)^2 \\ &= \frac{1 + \sqrt{5}}{4} \end{aligned}$$

である。

II

【解答】

(1)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
	1	1	0	2	1	5	0	1	1	4
(2)	サ	シ	ス	セ	ソ					
	5	4	2	5	5					

【解説】

(1)(i)

袋から玉を2個取り出すとき、玉の取り出し方は全部で ${}_5C_2 = 10$ (通り)あり、これらは同様に確からしい。したがって、 $X=2$ である確率は、

$$\frac{{}_2C_2}{10} = \frac{1}{10}$$

である。

(ii)

$X+Y=2$ のとき、 $(X, Y) = (0, 2), (1, 1), (2, 0)$ である。 $X=2, Y=0$ である確率と $X=0, Y=2$ である確率は、ともに

$$\frac{{}_2C_2 \cdot {}_3C_2}{10 \cdot 10} = \frac{3}{100}$$

である。また、 $X=1, Y=1$ である確率は、

$$\left(\frac{{}_2C_1 \cdot {}_3C_1}{10} \right)^2 = \frac{9}{25}$$

である。したがって、 $X+Y=2$ である確率は

$$2 \cdot \frac{3}{100} + \frac{9}{25} = \frac{21}{50}$$

となる。

(iii)

$X=2, Y=0$ である確率は $\frac{3}{100}$ であるから、求める条件付き確率は

$$\frac{\frac{3}{100}}{\frac{21}{50}} = \frac{1}{14}$$

である。

(2)(i)

サイコロで k の目が出たとき、袋の中には赤玉が2個、白玉が $k+3$ 個あるから、サイコロで k の目が出て、かつ取り出した玉が2個とも赤玉である確率は、

$$\frac{1}{6} \cdot \frac{{}_2C_2}{{}_{k+5}C_2} = \frac{1}{6} \cdot \frac{2}{(k+5)(k+4)}$$

である。

(ii)

取り出した玉が2個とも赤玉である確率は、

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^6 \frac{1}{6} \cdot \frac{2}{(k+5)(k+4)} &= \frac{1}{3} \sum_{k=1}^6 \left(\frac{1}{k+4} - \frac{1}{k+5} \right) \\ &= \frac{1}{3} \left(\frac{1}{5} - \frac{1}{11} \right) \\ &= \frac{2}{55} \end{aligned}$$

である。

III

【解答】

(1)	ア	イ	ウ			
	1	6	3			
(2)	エ	オ	カ			
	1	6	3			
(3)	キ	ク	ケ	コ	サ	
	6	3	6	1	4	
(4)	シ	ス	セ	ソ	タ	チ
	3	4	1	2	3	4

【解説】

(1)

$$\vec{OC} = \frac{3}{4}\vec{a} + \frac{1}{4}\vec{b}$$

であるから、

$$\begin{aligned} \vec{OD} &= \frac{2}{3}\vec{OC} \\ &= \frac{1}{6}(3\vec{a} + \vec{b}) \end{aligned}$$

である。

(2)

$\angle AOB = 60^\circ$ のとき、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}||\vec{b}|\cos 60^\circ = \frac{1}{2}|\vec{a}||\vec{b}|$$

である。また、 $\angle DOE = 90^\circ$ のとき、

$$\begin{aligned} \vec{OD} \cdot \vec{OE} &= 0 \\ \Leftrightarrow \frac{1}{6}(3\vec{a} + \vec{b}) \cdot \left\{ -\frac{1}{6}(3\vec{a} - 5\vec{b}) \right\} &= 0 \\ \Leftrightarrow 9|\vec{a}|^2 - 12\vec{a} \cdot \vec{b} - 5|\vec{b}|^2 &= 0 \\ \Leftrightarrow 9|\vec{a}|^2 - 6|\vec{a}||\vec{b}| - 5|\vec{b}|^2 &= 0 \\ \Leftrightarrow 9\left(\frac{|\vec{a}|}{|\vec{b}|}\right)^2 - 6\frac{|\vec{a}|}{|\vec{b}|} - 5 &= 0 \quad (\because |\vec{b}| > 0) \\ \Leftrightarrow \frac{|\vec{a}|}{|\vec{b}|} &= \frac{1 \pm \sqrt{6}}{3} \end{aligned}$$

を得る。 $\frac{|\vec{a}|}{|\vec{b}|} > 0$ より、 $\frac{OA}{OB} = \frac{|\vec{a}|}{|\vec{b}|} = \frac{1 + \sqrt{6}}{3}$ である。

(3)

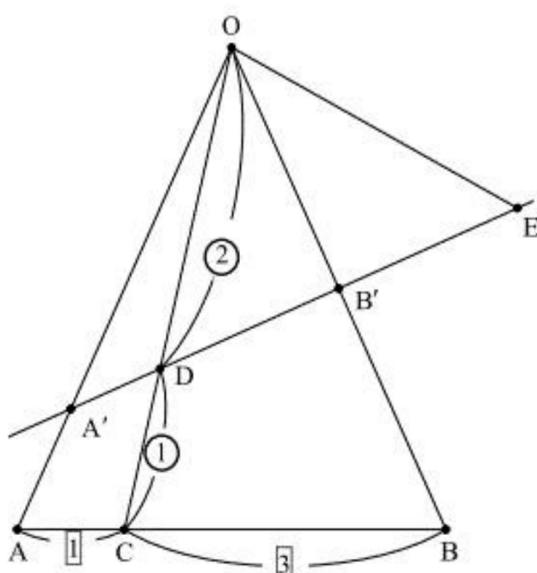
$$\begin{aligned} \vec{DE} &= \vec{OE} - \vec{OD} \\ &= -\frac{1}{2}\vec{a} + \frac{5}{6}\vec{b} - \frac{1}{6}(3\vec{a} + \vec{b}) \\ &= -\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b} \end{aligned}$$

であるから、

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= \vec{OD} + t\vec{DE} \\ &= \frac{1}{6}(3\vec{a} + \vec{b}) + t\left(-\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}\right) \\ &= \frac{1}{6}\{(3-6t)\vec{a} + (1+4t)\vec{b}\} \end{aligned}$$

である。

(4)



2点 A', B' は直線 DE 上にあるため、(3)より、実数 t_A, t_B を用いて、

$$\vec{OA'} = \frac{1}{6}\{(3-6t_A)\vec{a} + (1+4t_A)\vec{b}\}, \vec{OB'} = \frac{1}{6}\{(3-6t_B)\vec{a} + (1+4t_B)\vec{b}\}$$

と表される。また、点 A' は直線 OA 上の点であるから、 $1+4t_A = 0$ となる。よって、 $t_A = -\frac{1}{4}$

であるため、 $\vec{OA'} = \frac{3}{4}\vec{a}$ である。さらに、点 B' は直線 OB 上の点であるから、 $3-6t_B = 0$ とな

る。よって、 $t_B = \frac{1}{2}$ であるため、 $\vec{OB'} = \frac{1}{2}\vec{b}$ である。ゆえに、

$$\begin{aligned} \frac{OA'}{OA} &= \frac{\left|\frac{3}{4}\vec{a}\right|}{|\vec{a}|} = \frac{3}{4} \\ \frac{OB'}{OB} &= \frac{\left|\frac{1}{2}\vec{b}\right|}{|\vec{b}|} = \frac{1}{2} \end{aligned}$$

であり、

$$S_2 = \frac{3}{4} \cdot \frac{1}{2} S_1 = \frac{3}{8} S_1$$

となる。また、4点 D, E, A', B' は同一直線上にあり、

$$\begin{aligned} \vec{A'B'} &= \vec{OB'} - \vec{OA'} \\ &= -\frac{3}{4}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b} \\ &= \frac{3}{4}\vec{DE} \end{aligned}$$

より、 $\frac{DE}{A'B'} = \frac{4}{3}$ であるから、

$$\begin{aligned} S_3 &= \frac{4}{3} S_2 \\ &= \frac{1}{2} S_1 \end{aligned}$$

となる。したがって、

$$\begin{aligned} S_1 : S_2 : S_3 &= S_1 : \frac{3}{8} S_1 : \frac{1}{2} S_1 \\ &= 8 : 3 : 4 \end{aligned}$$

である。

IV

【解答】

(1)	ア					
	0					
(2)	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
	-	4	7	1	2	7
(3)	ク	ケ	コ	サ	シ	ス
	-	3	-	2	7	7

【解説】

(1)

$$f'(x) = 3x^2 - 3a^2 \\ = 3(x-a)(x+a)$$

である。 $f'(x)$ は2次式であるため、3次関数 $f(x)$ に極値が存在しないのは、 $f'(x)=0$ の判別式 D について、 $D \leq 0$ が成り立つときである。

$$D = 36a^2$$

であるから、 $D \leq 0$ が成り立つのは、 $a^2 \leq 0$ 、すなわち $a=0$ のときである。

(2)

$f(x)$ が極値をもつことから、 $a \neq 0$ である。 $f'(x)=0$ の解は $x=\pm a$ であるから、 $x=\pm a$ のとき $f(x)$ は極値をとる。

[1] $a > 0$ のとき

x^3 の係数が正であることから、 $f(x)$ は $x=-a$ のとき極大値 $f(-a)=-3a^3$ をとるため、

$$-3a^3 = 4$$

$$\therefore a^3 = -\frac{4}{3}$$

である。しかし、これは $a > 0$ に矛盾するから不適である。

[2] $a < 0$ のとき

$f(x)$ は $x=a$ のとき極大値 $f(a)=-7a^3$ をとるため、

$$-7a^3 = 4$$

$$\therefore a^3 = -\frac{4}{7}$$

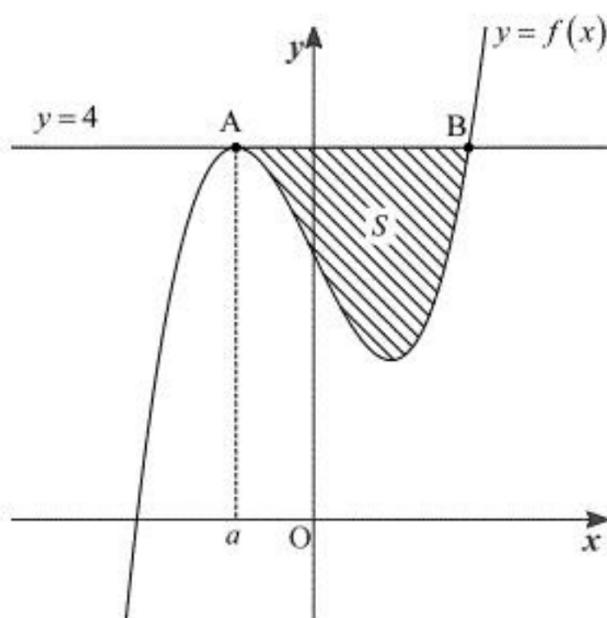
である。これは $a < 0$ を満たす。

以上、[1]、[2]より、 $a^3 = -\frac{4}{7}$ である。このとき、 $f(x)$ は $x=-a$ で極小値をとり、

$$f(-a) = -3a^3 \\ = \frac{12}{7}$$

である。

(3)



Aの x 座標よりBの x 座標の方が大きいとすると、Aの x 座標は a である。また、

$$\begin{cases} y = x^3 - 3a^2x - 5a^3 \\ y = 4 \end{cases}$$

より y を消去して、

$$x^3 - 3a^2x - 5a^3 = 4$$

$$\Leftrightarrow x^3 - 3a^2x - 5a^3 = -7a^3 \left(\because a^3 = -\frac{4}{7} \right)$$

$$\Leftrightarrow x^3 - 3a^2x + 2a^3 = 0$$

$$\Leftrightarrow (x-a)^2(x+2a) = 0$$

$$\therefore x = a, -2a$$

となるから、Bの x 座標は $-2a$ である。ゆえに、

$$\frac{AB}{a} = \frac{-2a-a}{a} \\ = -3$$

である。また、

$$\begin{aligned} \frac{S}{a} &= \frac{1}{a} \int_a^{-2a} \{4 - f(x)\} dx \\ &= -\frac{1}{a} \int_a^{-2a} (x^3 - 3a^2x + 2a^3) dx \\ &= -\frac{1}{a} \left[\frac{1}{4}x^4 - \frac{3}{2}a^2x^2 + 2a^3x \right]_a^{-2a} \\ &= -\frac{1}{a} \left\{ (4a^4 - 6a^4 - 4a^4) - \left(\frac{1}{4}a^4 - \frac{3}{2}a^4 + 2a^4 \right) \right\} \\ &= \frac{27}{4}a^3 \\ &= -\frac{27}{7} \end{aligned}$$

となる。